



平成30年度 富谷市決算・事業報告

平成30年度決算が、令和元年第3回富谷市議会定例会で認定されました。

皆さんに納めていただいた税金などがどのように使われ、まちづくりがどのように進められているか、お知らせします。

問 財政課 財務担当 ☎358-0619

一般会計の決算状況	
歳入	136 億 4,619万円
歳出	124 億 5,291万円
翌年度に繰り越すべき財源	3 億 1,032万円
実質収支	8 億 8,297万円

【平成30年度決算の概要】

平成30年度の一般会計の決算は、歳入が136億4,619万円（前年比2.5%減）、歳出が124億5,291万円（前年比5.9%減）で、歳入歳出差引額（形式収支）は11億9,328万円となり、これから令和元年度に繰り越した事業に必要な財源3億1,032万円を除いた実質収支は8億8,297万円の黒字となっています。

この黒字分は令和元年度の事業に充てるほか、令和元年度以降に市のお金が不足する場合の蓄えとして、令和元年度補正予算を通して基金に積み立てます。

なお、8年ぶりに一般会計の「市債残高」が減少したことや、7年ぶりに「実質単年度収支」が黒字に転じたことに加え、昨年度に引き続き「プライマリーバランス」と「基金残高」双方の黒字化を達成しました。

行政改革 実行中！ ～効果的・効率的な行政経営を推進します～

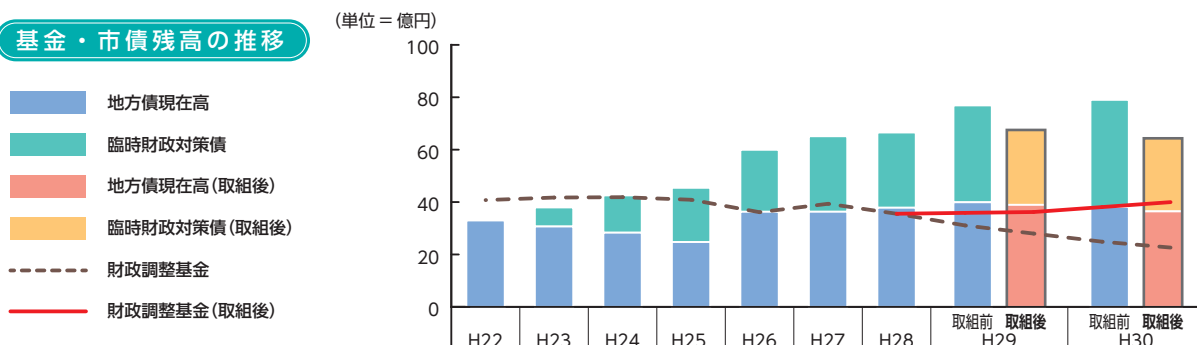
近年の財政運営は、基金の取り崩しや市債により、やり繰りしながらの財政運営が続いていました。

このような現状をより良くするため、平成29年度から行政改革に着手しています。富谷市行政改革基本方針・実施プランに基づき、さまざまな取組を進めてきた結果、財政調整基金は増加し39億9千万円、

基金全体としては68億9千万円となっています。また、市債残高は64億9千万円と減少に転じました。

今後も限られた経営資源を効果的に活用するとともに、事業の選択と集中により、最適な行政サービスを提供できるよう、行政改革に取り組んでまいります。

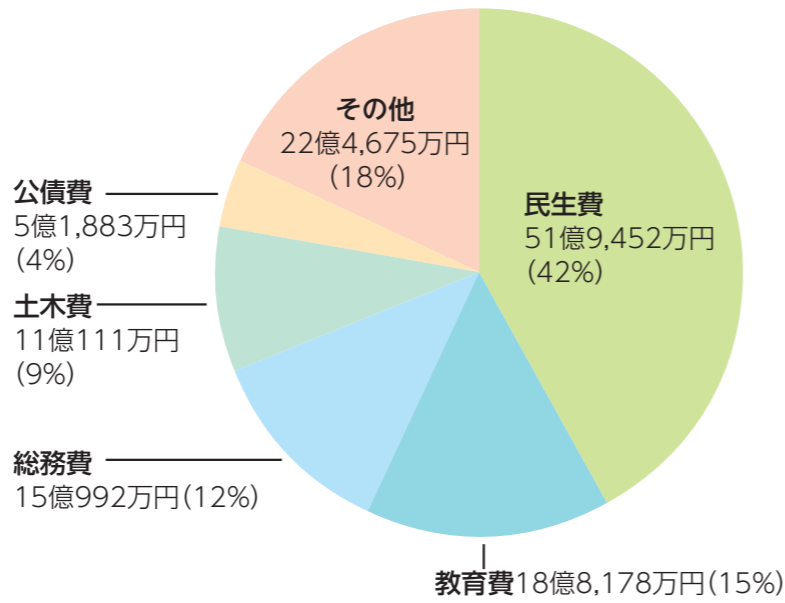
基金・市債残高の推移



一般会計 歳出 124億5,291万円

歳出は、民生費が全体の約42%を占め、児童手当の支給、市立保育所の管理運営や認可保育所への運営補助、障害者福祉事業や子ども医療費助成、生活保護費の支給、放課後児童クラブの運営などを行いました。

また、教育費では、各小中学校管理運営やあけの平公民館大ホールの空調設備設置工事などを行いました。



市民1人あたりに換算すると…

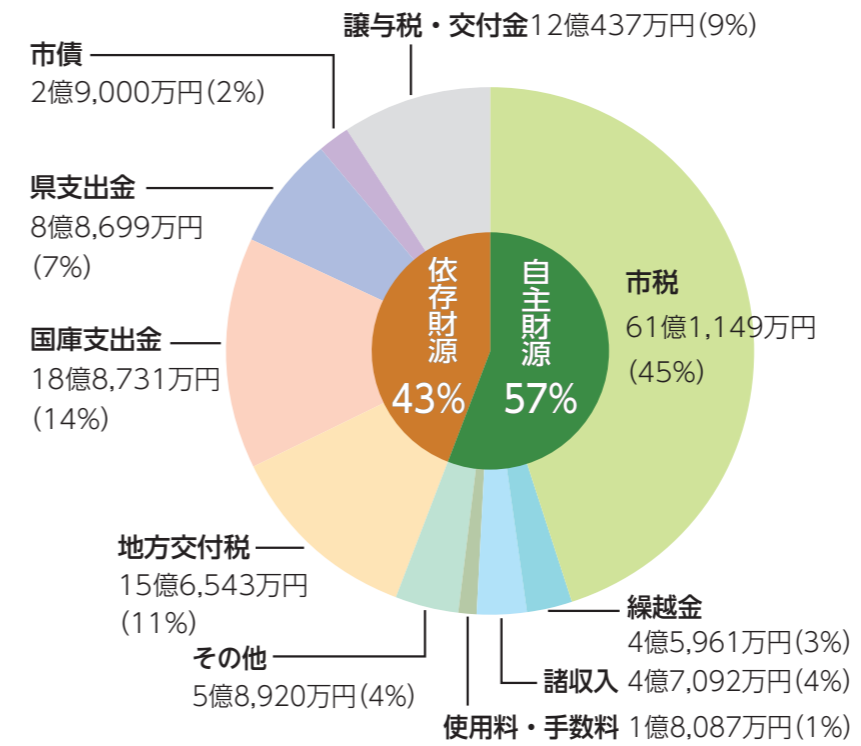
平成30年度	平成29年度
23万7,103円	25万1,641円
民生費…………… 9万8,904円	民生費…………… 10万4,459円
教育費…………… 3万5,829円	教育費…………… 3万5,447円
総務費…………… 2万8,749円	総務費…………… 3万2,304円
土木費…………… 2万 965円	土木費…………… 1万9,865円
公債費…………… 9,879円	公債費…………… 9,000円
その他…………… 4万2,777円	その他…………… 5万 566円

※H31.3.31末現在の住民基本台帳人口 52,521人で算出しています。

用語解説

- 民生費**
児童・高齢者・障害者福祉、医療費など福祉全般の経費
- 教育費**
小中学校・幼稚園の管理、生涯学習やスポーツ事業などの経費
- 総務費**
防犯、交通安全、市民バスの運行などの経費
- 土木費**
道路の管理や改良、市営住宅、公園管理などの経費
- 公債費**
市が借りたお金やその利子を返還するための経費
- その他**
衛生費、消防費、商工費、議会費、農林水産業費などの経費

一般会計 歳入 136億4,619万円



市民1人あたりに換算すると…

平成30年度	平成29年度
25万9,824円	26万6,179円
市税…………… 11万6,363円	市税…………… 11万4,963円
国・県支出金…………… 5万2,823円	国・県支出金…………… 5万7,629円
地方交付税…………… 2万9,806円	地方交付税…………… 3万 330円
市債…………… 5,522円	市債…………… 8,035円
その他…………… 5万5,310円	その他…………… 5万5,222円

※H31.3.31末現在の住民基本台帳人口 52,521人で算出しています。

自主財源

78億1,209万円(57%)

市税や使用料など、市が国に頼らず、自主的に調達できるお金のことです。この自主財源が多いと市の予算にゆとりが生じるため、歳入に占める割合ができるだけ高いことが望ましいとされています。

依存財源

58億3,410万円(43%)

地方交付税や国・県支出金など、国・県の意思により交付されるお金のことです。また、市債も依存財源に該当します。

用語解説

- 市税**
皆さんが市に納めた税金（市民税、固定資産税、軽自動車税など）です。
- 繰越金**
平成29年度から平成30年度へ繰り越したお金です。
- 地方交付税**
全国どこでも同じサービスが受けられるよう、国から配分されるお金です。
- 国・県支出金**
国や県が使いみちを決めて交付するお金です。

特別会計・水道事業会計の決算状況

特別会計

特定の事業を行うために、一般会計とは別に計上される会計を特別会計といいます。平成30年度は、4会計とも黒字決算となりました。

会計	収入済額	支出済額	内容
国民健康保険特別会計	38億5,529万円	38億2,101万円	医療費の支給、特定健康診査など。
下水道事業特別会計	9億 966万円	8億8,685万円	公共下水道の整備など。
介護保険特別会計	25億6,375万円	25億2,393万円	介護サービス給付費など。
後期高齢者医療特別会計	3億5,194万円	3億3,920万円	後期高齢者医療広域連合への納付金など。

水道事業会計

水道事業会計は、一般会計とは異なり企業会計の方式によって経営しています。安全でおいしい水道水を安定供給するために、水道施設の維持管理等を行っています。

会計	収入済額	支出済額	内容
収益的収支	11億5,515万円	11億2,877万円	収入のほとんどは水道料金。支出は受水費や固定資産の減価償却費など。
資本的収支	770万円	1億7,142万円	支出は施設整備と企業債償還などの資産取得など。

正味プライマリーバランスと基金残高の推移

市債発行額と公債費に係る収支（※正味プライマリーバランス）の推移

(単位：千円)

年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度
市債発行額：A	290,000	422,600	653,200	926,400	1,842,200
公債費：B	518,828	473,316	473,074	472,209	447,684
内訳					
元金	470,672	420,230	415,298	410,232	390,712
利子	48,156	53,086	57,776	61,977	56,972
正味プライマリーバランス C = B - A	228,828	50,716	△ 180,126	△ 454,191	△ 1,394,516

※正味プライマリーバランス（本市独自財政分析用語）：公債費の支払額から起債発行額を差し引いたもの。

基金（特定目的基金）残高の推移

(単位：千円)

年度	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度
1. 財政調整基金	3,997,718	3,620,700	3,596,906	3,935,323	3,613,468
2. 減債基金	204,819	204,814	33,859	33,847	33,838
3. その他特定目的基金	2,692,090	2,669,282	2,737,529	2,742,503	2,492,240
合計	6,894,627	6,494,796	6,368,294	6,711,673	6,139,546
対前年度比増減額	399,831	126,502	△ 343,379	572,127	△ 272,429

平成30年度に実施した主な事業

富谷市総合計画の4つの基本方針ごとに事業を紹介します

2. 教育と子育て環境を誇るまち！

(1)創造性豊かな教育環境のまちを創ります

スクールソーシャルワーカー事業(学校教育課)…179万円
2名のソーシャルワーカーを配置し、小・中学校を定期的に巡回しながら、児童生徒が抱えるさまざまな問題等について、支援を行いました。

外国青年招致事業(学校教育課)……………2,228万円
外国語指導助手(ALT)5名を活用し、言語、文化の理解や積極的なコミュニケーションの育成などに努めました。

市立小学校英語等支援員配置業務(学校教育課)…751万円
令和2年度から実施される小学校の英語必修化に対応するため、全小学校に8人の英語等支援員を配置し、英語活動や学習指導の充実を図りました。

中学生海外研修派遣事業(学校教育課)……………521万円
生徒25名(各中学校5名)が、地元の中生との交流やショートホームステイ、現地日系企業訪問など、台湾台北市等で研修を行いました。

(2)あらゆる世代が生きがいを感じて暮らせるまちを創ります

生涯学習推進事業(生涯学習課)……………1,907万円
令和4年度の富谷市民図書館開館に向けて、市民参加型デザイン会議やパブリックコメント、サウンディング型市場調査を実施し、「富谷市民図書館整備基本計画」を策定しました。また、富谷市民図書館基金条例を制定しました。



総合運動公園運営・維持管理事業(生涯学習課)…4,789万円
スポーツセンター屋根塗装工事を実施するなど、利用者の安全面に配慮した取組を行いました。またトレーニング機器の定期的な更新を進め、市民ニーズに応じた施設の充実を図り、市民の体力づくりの推進に努めました。

(3)伝統と文化を誇れるまちを創ります

民俗ギャラリー運営・維持管理事業(生涯学習課)……………299万円
文化財の保護や啓発・周知を行うとともに、富谷隕石里帰り展や街道まつりにあわせた企画展等を開催しました。

(4)地域で子育てを支えるまちを創ります

認可保育所運営事業(子育て支援課)……………8億850万円
小規模保育所2園が開所するなど、保育所運営事業者と連携し、保育ニーズに対応した保育環境の充実に努め、待機児童ゼロ達成に寄与しました。

保育所運営・維持管理事業(子育て支援課)…1億2,968万円
市立保育所の安定的な運営および施設の維持管理、保育の質の向上に努め、適切な保育環境の確保を図りました。また、保育士の確保に努め、待機児童ゼロ達成に寄与しました。



妊婦支援事業(子育て支援課)……………3,818万円
とみや子育て支援センター(とみここ)で母子手帳の交付と妊婦健診の助成を行い、妊娠を機に母体や家族の健康に関心を持てるよう、プレママ学級等で食事や生活についての健康教育を行いました。

子育て支援事業(子育て支援課)……………2,080万円
とみや子育て支援センター(とみここ)を拠点に、乳幼児健診や各種教室、育児相談等をスムーズな運営に努めるとともに、子育て講座やあそびのひろばなどを実施し、母子の交流機会を創設しました。



放課後児童クラブ運営事業(子育て支援課)…1億5,942万円
委託法人と連携し、市内8児童クラブの安定的な運営および施設の維持管理、児童支援の質の向上に努めました。また、富谷小学校児童クラブの学校敷地内移設が決定し、設計を行いました。

子ども医療費助成事業(子育て支援課)…2億7,358万円
18歳年度末までの子どもを持つ保護者に対し、医療費の一部を助成しました。

1. 暮らしを自慢できるまち！

(1)富谷で働くことにやりがいを実感できるまちを創ります

富谷市まちづくり産業交流プラザ運営・維持管理事業(産業観光課)……………3,331万円
平成30年7月に、旧役場庁舎をリノベーションして、とみぶらをオープン。起業創業者が4件実現したほか、シェアオフィスに12社が入居しました。また起業塾「富谷塾」を開塾し、75名が入塾。十宮夜市や富マママルシェが企画・運営されたほか、市民グループが誕生するなど、しんまち地区の新たなにぎわいの創出にもつながりました。



企業誘致事業(産業観光課)……………3,762万円
立地企業1社に対し、奨励金により支援を行いました。また、宮城県企業立地セミナー(東京・名古屋)に参加し、トップセールスによる誘致活動を展開しました。

(2)“とみやシティブランド”で自慢したくなるまちを創ります

とみや国際スイーツ博覧会事業(産業観光課)…2,634万円
コロンビア大使館やスイーツ関連学校などとの産学官連携により博覧会を開催し、交流人口の拡大と「スイーツのまち=とみや」のPRにつなげました。(国の地方創生推進交付金を活用)

街道まつり運営事業(産業観光課)……………569万円
2020年に富谷宿開宿400年を迎えるにあたり、富谷の歴史と絆を紡ぐまつりとして、しんまち地区を会場に開催しました。(国の地方創生推進交付金を活用)

とみやはちみつプロジェクト事業(農林振興課)…68万円
市民サポーターが参加して市役所屋上で行っている養蜂活動です。採取したはちみつは、とみやスイーツの材料や、ふるさと納税の返礼品として使われました。また養蜂家育成事業に取り組みました。

農作物有害鳥獣等駆除事業(農林振興課)……………252万円
イノシシの被害防止対策として、12件の電気柵等の助成を行ったほか、宮城県鳥獣被害防止支援事業を活用し、5行政区で7.5kmの物理柵を設置しました。

(3)安全で自由に移動できる便利なまちを創ります

新公共交通システム推進事業(企画政策課)…1,047万円
本市が目指すべき交通の将来像や都市交通体系等のあり方について、「富谷市公共交通グランドデザイン(都市・地域総合交通戦略)基本構想」を策定しました。(国の街路交通調査費補助金を活用)

市民バス乗り継ぎ運行事業(企画政策課)……………86万円
イオン富谷店を乗り継ぎ拠点として、市民バスと宮城交通バスとの泉中央駅区間の乗り継ぎ運行を実施しました。

市道穀田三ノ関線道路改良事業(都市整備課)……………1億9,842万円
富谷小学校・富谷中学校周辺の朝夕に発生する慢性的な渋滞を解消するため、工事に着手しました。

側溝整備事業(都市整備課)……………7,594万円
太子堂、富ヶ丘、鷹乃杜、とちの木の4地区等において、排水機能の改善と歩行者の安全を確保するため、有蓋化工事を実施しました。

市道維持管理事業(都市整備課)……………2億310万円
市道において、側溝の破損や劣化した舗装の補修や冬期間における除雪・融雪剤散布等を実施しました。

(4)住み心地の良さを実感できる豊かなまちを創ります

都市計画事業(都市計画課)……………448万円
仙塩広域都市計画第7回定期見直しにおいて、明石台東地区を新たに市街化区域へ編入しました。

〔(仮称)やすらぎパークとみや〕整備事業(生活環境課・生涯学習課)……………589万円
公営墓地とパークゴルフ場を一体整備するための基本計画を策定しました。



上水道施設維持管理業務(上下水道課)……………1億9,503万円
配水池やポンプ場などの機器、道路に埋設された配水管等を適正に維持・管理し、水道水の安定供給を図るため、富ヶ丘・鷹乃杜地区の老朽化した配水管の更新工事等を実施しました。また鷹乃杜浄水場南側のり面の改修工事に着手しました。

4. 市民の思いを協働でつくるまち！

(1)日常生活が安全で包まれたまちを創ります

自主防災組織育成推進業務(防災安全課) …… 180万円
町内会や自主防災組織を結成している地域の防災活動を支援するため、備蓄物品の購入費用や防災訓練に係る経費を支援するとともに、自主防災組織の結成を推進しました。



住宅地震対策事業(都市計画課) …… 583万円
昭和56年以前に建築された木造住宅の耐震診断について、助成を行いました。また、通学路や避難路の沿道を中心に、倒壊の危険性のあるブロック塀の除却や生垣等への切替について助成を行いました。

防犯灯整備事業(都市整備課) …… 2,299万円
防犯灯を新設するとともに、二酸化炭素排出量の削減と各種コストの縮減も考慮して1,002灯のLED化を進め、通学路や生活道路における防犯対策を推進しました。

空き家対策事業(生活環境課) …… 138万円
不動産、法務、建築等の学識経験者や地域団体の代表者等による空き家対策協議会を設置・開催し、「空き家対策計画～空き家の利活用促進に向けて～」を策定しました。

(2)持続可能な都市環境がブランドになるまちを創ります

一般廃棄物収集運搬処理事業(生活環境課) …… 2億2,798万円
廃棄物の処理及び清掃に関する法律や資源有効利用促進法に基づき、効率的に収集・運搬を行い、適正処理に努めました。

リサイクル推進事業(生活環境課) …… 714万円
排出されるごみの再資源化を推進し、ごみの減量化を図るため、分別収集されるごみのほか、直接搬入されるごみについても積極的に資源化を進めました。また、小型充電式電池の拠点回収を開始し、市民の利便性向上と適正排出の啓発に努めました。



再生可能エネルギー推進事業(生活環境課・子育て支援課) …… 1,068万円
みやぎ環境交付金(市町村提案型)を活用し、日吉台小学校児童クラブ棟へ純水素燃料電池を設置するとともに、燃料電池バスの試乗会やシンポジウムの開催、学校での水素学習実験キットを使用した環境教育などを通して、水素エネルギーの利活用に関して市民啓発を行いました。

環境省公募「地域連携・低炭素水素技術実証事業」(企画政策課) …… 66万円
平成30年8月に実証施設の開所式を行い、実証によるデータの収集と分析を実施し、システム機構やCO₂削減効果を検証しました。本実証事業に対する関心は非常に高く、国内外から多くの視察を受け入れました。また、宮城県と共催した「みやぎ水素エネルギーシンポジウムin富谷」では、水素エネルギーの有用性について社会啓発に努めました。



(3)健全なまちづくりに向けてみんなが協働するまちを創ります

広報・広聴事業
・**広報とみや発行等(市長公室)** …… 1,257万円
「広報とみや」を毎月発行し、市政に関する情報等を発信しました。フェイスブックやツイッター、インスタグラムに加え、市公式のLINEを開発するなど、SNSを活用して富谷市を積極的にPRしました。

町内会館整備事業(市民協働課) …… 3,677万円
穀田会館の建設や(仮称)杜乃橋二丁目会館建設に向けて設計・地質調査、明石台第九町内会館の備品整備を行いました。



行政改革推進事業(行政改革推進室) …… 3万円
富谷市行政改革基本方針・実施プランに基づき、事業見直しによる歳出抑制や市有財産の有効活用などさまざまな取組を推進しました。

基幹系システム構築事業(総務課) …… 2,620万円
宮城県の協力体制のもと、県内初の自治体共同クラウド導入を村田町とともに、基幹系システムの運用コストの削減を図りました。

3. 元気と温かい心で支えるまち！

(1)あらゆる世代が元気に暮らす健康自慢のまちを創ります

高齢者交流事業(長寿福祉課) …… 171万円
高齢者の生きがい・仲間づくりの推進、心身の健康の維持を目指し、「ゆとりすとクラブ・サロン」の運営を支援しました(平成30年4月には、明石台一丁目ゆとりすとクラブ・サロンが誕生し、市内22か所で開催)。



介護予防・日常生活支援サービス事業(長寿福祉課)
・**通所事業** …… 3,293万円
平成30年度より、要支援相当の高齢者を対象に、従来の「通所介護相当サービス」、「筋トレ型通所サービス」に事業者指定制度を導入・実施し、要介護状態への移行防止に努めました。
・**訪問事業** …… 761万円
要支援相当の家事支援が必要な高齢者を対象に、訪問介護相当サービスに加え、平成30年度に設立した市民団体「まごの手」による生活支援型訪問サービス事業を実施しました。

地域包括支援センター運営事業(長寿福祉課) …… 4,503万円
平成30年10月に「富谷中央・あけの平圏域地域包括支援センター」を新たに設置し、市内の生活圏域すべてに3か所の委託型地域包括支援センターを整備しました。

住民検診事業(健康推進課) …… 1億5,821万円
休日・夜間検診や胃がん未検者検診の実施、子宮がん検診と乳がん検診の無料クーポンを発行するなど、受診率向上に取り組みました。また、精密検査対象者への受診勧奨および受診状況の把握を行い、早期治療・重症化予防に努めました。

健康づくり事業(健康推進課) …… 189万円
高血圧・高血糖予防をテーマとし、健康推進委員会や関係機関・団体と連携し、「塩エコキャンペーン」を実施しました。また、糖尿病予防をテーマにした市民公開講座や運動教室を開催しました。



地域医療推進事業(健康推進課) …… 5,187万円
公立黒川病院の安定的な運営・維持管理に要する費用の一部を負担するとともに、医師会・地域の医療機関と連携して休日当番医事業を行い、医療環境整備に努めました。また救急電話相談窓口「こども夜間安心安全コール」や「おとなの救急電話相談」の利用を促進しました。

(2)高齢者も障がい者も安心して暮らせるまちを創ります

障がい者就労支援事業(地域福祉課) …… 1,834万円
富谷市地域活動支援センターの運営を指定管理者制度により社会福祉協議会へ委託し、日常生活の充実に努めました。また、障がい者の雇用拡大のため、新たに就労継続支援事業所B型が1施設開設されました。



高齢者・障がい者交通対策事業
「とみぼす」高齢者分(長寿福祉課) …… 2,431万円
「とみぼす」障がい者分(地域福祉課) …… 271万円
70歳以上の方や18歳以上の障がい者手帳所持の公共交通機関の利用が可能な方を対象として、高齢者・障がい者外出支援乗車証「とみぼす」を交付しました。



重度障がい者等福祉タクシー利用券助成事業(地域福祉課) …… 64万円
平成30年10月から日常生活の利便性と社会活動の範囲拡大を図るため、重度の障がいや要介護状態の方(要件あり)を対象とし、タクシー利用料金の一部助成を開始しました。

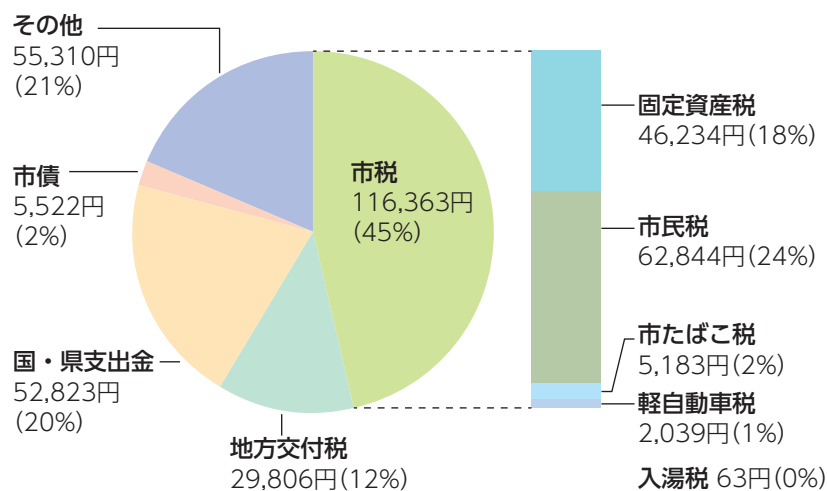
(3)身近なコミュニティがみんなの支えになるまちを創ります

自治振興事業(市民協働課) …… 1,636万円
町内会の運営に対して補助金を交付し、地域活動の充実・強化を図りました。また、町内会の設立準備に要する経費に対して補助金を交付し、新たな町内会の設立につなげました。

税金の負担額および使用額

一人当たりの負担額…11万6,363円

一人当たりの歳入額…25万9,824円



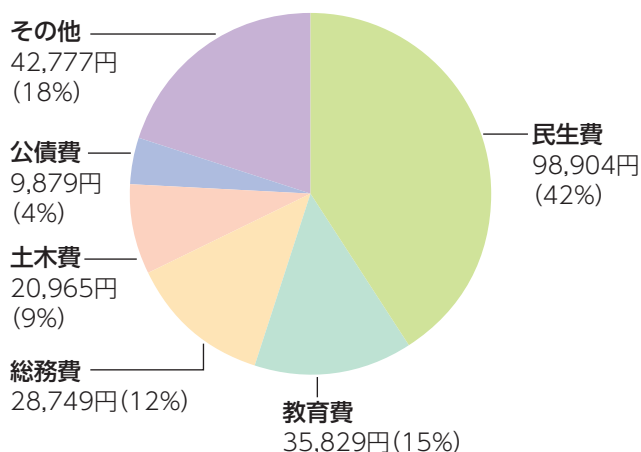
市民一人当たりの負担額は？

平成30年度の税収を一人当たり直してみると、市民税や固定資産税などの市税が、11万6,363円となりました。

それに対して一人当たりの歳入は23万7,103円となっています。

その差額の部分を、地方交付税・国県支出金などの国や県から交付されるお金や、家庭でいえばローンにあたる地方債の借入によって補っています。

一人当たりに使われたお金…23万7,103円



市民一人に、どれくらいのお金が使われたの？

一人当たりに使われたお金を主な目的別で見ると、児童手当支給事業、障害者自立支援給付事業などの民生費で98,904円、市立小中学校や学校給食センター運営・維持管理事業などの教育費で35,829円、市民バス運営事業などの総務費で28,749円、市道の維持管理事業や公園の維持管理事業などの土木費で20,965円、地方債の償還費用として公債費で9,879円となり、全体として一人当たりに使われたお金は23万7,103円となりました。

健全な財政運営に努めています

健全化判断比率・資金不足比率

富谷市は、早期健全化基準を大きく下回り、昨年度に引き続き健全な財政運営を行っています。

○健全化判断比率 一つでも早期健全化基準を超えた場合、財政健全化計画の作成が義務付けられるなど、自主的な改善努力による財政健全化が求められます。

区分	富谷市	早期健全化基準	内容
実質赤字比率	—	13.48	一般会計の実質赤字額の標準財政規模に対する比率
連結実質赤字比率	—	18.48	すべての会計の実質赤字額の標準財政規模に対する比率
実質公債費比率	▲2.0	25.0	公債費・公債費に準じた経費の標準財政規模に対する比率
将来負担比率	—	350.0	地方債の残高のほか、将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率

○資金不足比率

富谷市の公営企業会計（水道事業、下水道事業）は、資金不足比率が算定されませんでした。

健全化判断比率と資金不足比率は、自治体の財政健全化度を判断する新たな指標です。基準を超えた場合は、一般会計のほか特別会計や公営企業会計なども含めた財政健全化への取組が必要となります。